

# 以身伝しんぶん

## 展覧会関連イベント ダンスワークショップ

ダンスワークショップ “からだで遊ぼう”

些細なしぐさがダンスに!? からだを使った表現を体感。

講師：高木貴久恵（振付家、ダンサー）

日時：10月13日（土）13：30～16：00

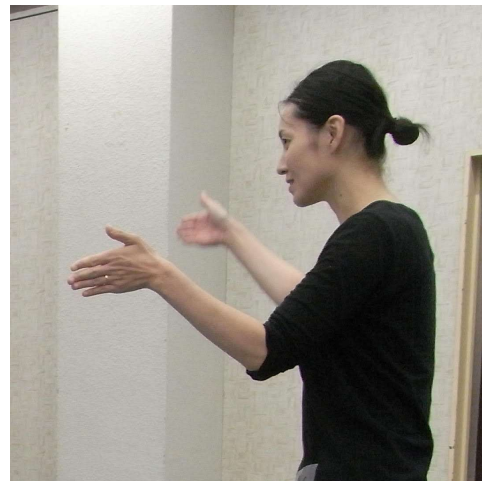


展覧会のテーマともつながる、身体感覚を実際に動いて試してみる

10月13日（土）八幡堀まわりの初日。ダンスワークショップのレポートです。1時30分NOMAに集合。簡単な説明の後文化会館に移動。コンテナポラリダンサーの高木貴久恵先生の指導で10名程のメンバー。小ホール

の半分の椅子をかたずけて広いカーペットの上で靴を脱いでダンスが！まず、身体をほぐすためカーペットの上を好きなように歩く。先生の少し早く、もう少し早く。もう少し早く！少し走って！段々早く！この段階で古傷

の腰が痛くなりダウン、写真係と勝手に決める。まず、2人対で、五組が一斉に歩く。ただどちらかが目をみつむ。もう一人が背中に手のひらを付け好きなように歩かせる。手のひらだけのコントロール。五分程で交代。次にパートナーを変えて、肩に手を置き目をみつむったまま同じように歩かせる。交代。椅子四脚を十文字に置き障害にして、今度は手を相手の頭に置き歩かせる。交代。次に、胸に手を添え後ろむきに歩かせる。交代。パートナーは変わるが2人対は変わらず。次は、目をつむった人に相手が手でタッチ。目をつむった人はタッチされた所を強さに応じて動かす。腕でも、肩でも、ボディでも、脚でも何処をタッチされても動かさなければならぬ。例えば、動かされている方は片足立ちで中腰、腕は開いて、たまたま腰を落とす。床を転がされる。予測できない動きを指示される。交代。パートナー



ワークショップ講師、ダンサーの高木貴久恵さん

をすこし使用、すぐ止まった。今行なわれた高木先生のレッスンは「動きの引き出しを増やす」「動きの再現性を高める」「動きの質感を高める」ためだったこと。これが高木先生の行なわれているコンテナポラリダンスで、音楽は動きが決まってるから発表会のためオリジナルを作ってもらうとのこと。先生の動きは、自然で、確

実で、自信を感じさせ、無理が無く優雅であった。これは、障害のある方にも簡単にコラボ出来るのではないかと！ダンスの音の概念が無く、身体の動きそのものをエレガントに、ダイナミックに、正確な動作が身に付くのではないかと考えさせられたワークショップだった。（担当 竹間）

## 秋のNOMA映画祭



映画祭イベント、大西暢夫氏の講演風景

11月11日（日）「秋のNOMA映画祭」スペシャルトーク「オキナワへいこう」が旧家で開催されました。10：00「オキナワへいこう」監督：大西暢夫 映画は大阪の精神科病院に長期入院中の3人の男性が旅行の準備をしているところから始まります。「沖繩に行きたい」という女性患者の夢の為に沖繩旅行が計画されますが、行けたのはその女性と3人とは別の男性患者。3人は主治医の許可が下りずに行けません。そして女性患者は旅行に行き、帰ってからも変わらない入院生活が続きます。淡々と笑えるシーンもあり、女性が「ふるさと」を歌うシーンでは胸がつかまりました。日本の精神

秋晴れの日曜日、映画鑑賞会＆トークが行われ、2作品計60名ほどの観客が作品を楽しみました。午前は大西暢夫監督の精神科病院長期入院者の沖繩への旅を巡る物語「オキナワへいこう」。午後は西原孝至監督の視覚や聴覚に障害をお持ちの方の日常を写した「もうろうをいきる」。こちらの作品はUD-CASTという言語バリアフリー化サービスを利用して、筆者も今回視覚障害者用音声ガイドを体験

科病院には何十年も入院している人が多くいるそうです。エンディングに名前があったのは5名中3名で、2名は「その他」になっていました。13：30「もうろうをいきる」監督：西原孝至 ひとり暮らしをしている女性、盲ろうとなり絶望して死を考えた女性、東北大震災の津波で家をなくした男性、兄弟が盲ろうの人：色々な家族の日常が紹介

秋晴れの日曜日、映画鑑賞会＆トークが行われ、2作品計60名ほどの観客が作品を楽しみました。午前は大西暢夫監督の精神科病院長期入院者の沖繩への旅を巡る物語「オキナワへいこう」。午後は西原孝至監督の視覚や聴覚に障害をお持ちの方の日常を写した「もうろうをいきる」。こちらの作品はUD-CASTという言語バリアフリー化サービスを利用して、筆者も今回視覚障害者用音声ガイドを体験

### UD-CASTも映画バリアフリー

験しました。利用は無料。スマートフォンにアプリをダウンロードし、作品を選んでおけば、映画の開始と連動して自動で案内が始まります。筆者は解説が少ないのでは？という印象を受けましたが、音を聴くことで状況が判ることも多く、視覚障害当事者の方と相談しながらこの作品では音声ガイドを作成したと伺い、普段どれだけ視覚情報に頼っているか思い知らされました。UD-CASTは映画館で上映中の作品にもたくさん利用できる作品があり、サービスも今回利用した音声ガイドの他に聴覚障害者用字幕、多言語字幕など多種あるとのこと。皆さんも映画を観る際に、是非体験してみてください。（記者 伊賀）

されます。幼い頃の親子の映像も流れますが、子育ての大変さも、ひとり暮らしの苦労も、絶望も、特にクローズアップされるわけではありません。食事をし、洗濯をして、仕事に行って：特別ではない、でも周りと繋がっている。手を触れあっているの話しは人と人の距離がとてに近い。そんな映画です。（記者 羽作家）



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら  
[https://www.instagram.com/borderless\\_area\\_kisya\\_club](https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club)